



はぐくみ

《学校教育目標》 ゆたかな心とたくましい体をもつ子どもの育成

立花北小 校長室だより

令和6年10月16日発行
No.4「スポーツマンシップのお話」
発行者：校長 佐野 正信

初めての立北スポーツフェスティバル

雨のためオープンスクールで実施できなかった立北スポーツフェスティバルを10月7日に行いました。6年生と1年生、5年生と3年生、4年生と2年生がペアになり、スポーツイベントのブースを開いたり、ペアでブースをまわったりしました。「いらっしゃい」「今ならすいてますよ」という呼び込みや、「おめでとうございます」「スゴイスゴイ!」という盛り上げの声をどんどん出していた高学年の人たち、初めての行事とは思えません。さすがでした。また、高学年の人は、ペア学年の人たちをトイレに連れて行ってあげるなど、優しく接してあげている姿を沢山見ることができました。初めて行う新しい行事を生み出すというのは大変なことです。皆さんが楽しめる行事を一生懸命に考えてくださった先生方、そしてみんなが楽しめるよう工夫してくれた児童会や高学年の子どもたちのおかげで、楽しいフェスティバルができました。「立北スポフェス」。尼崎市内41校どこにもない立北だけの行事です。来年も楽しみです。



スポーツマンシップというお話 ～尊重・勇気・覚悟とは～

10月の朝会で「スポーツマンシップ」というちょっと難しいお話をしました。こんなお話でした。

『皆さんは、スポーツマンシップという言葉聞いたことがありますか。調べてみると、こんなことが書かれていました。「スポーツマンシップとは、『尊重』『勇気』『覚悟』の3つが合わさってできています。」ちょっと難しい言葉ですね。1つ目の“尊重”というのは、ルールを守り、仲間、対戦相手、審判の方を大事にするということ。2つ目の“勇気”というのは、失敗を恐れずに挑戦するという。そして、3つ目の“覚悟”というのは、最後まで全力を尽くすこと。そして、どんな結果であっても受け入れるということ。これらを合わせて「スポーツマンシップ」というのだそうです。

これを聞いて、誰か思い浮かぶ人はいませんか。今、世界中から注目され、ほぼ毎日ニュースに出てこない日はないくらい大活躍している野球選手、そうです、ドジャースの大谷翔平選手です。仲間やまわりの人をいつも大切にし、失敗を恐れず挑戦し、そして最後まであきらめずに全力を尽くす。これらを兼ね備えている大谷選手ですが、実はアメリカに行って急にそんな選手になったのではありません。子どもの頃から、そうなりたくて努力を続けてきたのだそうです。周りの人への気くばり、はげまし、マナー…どれもしっかりと身につけているからこそ、どれだけ活躍しても、まわりの人にねたまれることもなく、みんなから応援されるのかもしれないですね。大谷選手、すごいですね。

さて、校長先生は、今日のお話を通して、皆さんにいったい何を伝えたかったのかわかりますか。それはね、「仲間や周りの人を大事にする」「失敗を恐れずに挑戦する」「最後まであきらめずにがんばる」これらのことは、スポーツだけのことでないということ、実は全てのことに共通して言えることだということです。これから2ヶ月半、長い長い2学期の学校生活が続きます。沢山の人が過ごしている学校では、自分の思い通りにならないこともあり、自分と気の合わない友達とぶつかることもあります。先生に叱られることもあるでしょう。例えば「勇気」。失敗を恐れずに挑戦することも「勇気」であれば、失敗したときにそれを素直に認めて「ごめんなさい」と謝ることができるのも立派な「勇気」です。すると「あの子は失敗もするけど、ちゃんと謝ることができる子だ」と、失敗が信頼につながります。

スポーツマンシップの精神を学校生活にもぜひ生かして、素晴らしいクラス、素晴らしい2学期をみんなの力でつくってほしいと思います。立北の子どもたちには、きっとできると思っています。』こんなお話をしました。

6年生、頑張ってきました！ ～第61回連合体育大会～

10月9日、第61回尼崎市小学校連合体育大会が、ベイコム陸上競技場で開かれました。立花北小学校の6年生20名が放課後練習で取り組んだ練習の成果を発揮すべく出場してきました。学校の代表として挑戦した6年生、あっぱれです！

